

おひつじ座

アンドロメダ座のすぐ南に、細長い二等辺三角形のように見える星座、 さんかく座があります。そのさんかく座のすぐ南よりに、やや形をくず した三角形で、「ヘ」の字を裏返したような形にならんでいる星があり ます。それが、今回ご紹介する「おひつじ座」の頭の部分になります。 「おひつじ座」は、空を飛ぶ金毛の牡羊の姿をあらわしています。暗い 星をつなぐため、牡羊の胴体は頭部とプレアデス星団の間に横たわって いると見当をつけるしかありません。この「おひつじ座」は、2000年

以上前のギリシア時代には重要な星座として注目されていました。その理由は、現在ではうお座の「西の魚」近 くにある春分点が、この「おひつじ座」にあったからです。そのなごりとして、春分点を「白羊宮の原点」と呼ん だり、羊の頭のイメージを表すマークを使ったりしています。

「おひつじ座」は金色の毛をもつ空飛ぶ牡羊として、次のような物語が語り継がれています。テッサリアの王で あるアタマスには、プリクソス王子とヘレー王女という二人の子供がいました。その二人の存在を、よく思わない 人物がいました。それがアタマス王の2番目の妻であるイーノです。イーノの策略で、二人は命を狙われてしま いました。そんな二人の前に現れたのが、毛が金色に輝く空を飛ぶ牡羊でした。この牡羊は、大神ゼウスが二人 を助けるために送ったものでした。プリクソス王子とヘレー王女はその羊の背に乗って、黒海の岸コルキスの国に 向けて飛びました。しかし、あまりにも速く高く飛んだため、残念ながらヘレー王女は海に落ちてしまいました。 プリクソス王子は無事にコルキスへたどり着き、親切にもてなされました。このときの羊が、その後、大神ゼウス によって星座となったとされています。

参考図書:全天星座百科(藤井旭著/河出書房新社)

今月の見どころ星どころ ふたご座流星群



2025 年も残すところあとわずかになりました。今年最後の流星群が夜空を彩ります。それが「ふた ご座流星群」です。ふたご座流星群は、年間三大流星群に数えられ、出現期間は 12 月 5 日から 19 日 の間になります。極大を迎えるのは 14 日の 17 時ごろで、14 日の宵から 15 日の未明にかけて、見ご ろになります。この日の月は、下弦を過ぎた細長い月になるため、月明かりの影響はわずかです。

今回の流星群の放射点は、二等星である、ふたご座のカストルのそばにあります。「放射点」とは、流 星群に属する複数の流星の経路をたどったとき、交差する1点のことです。流星群の名前は、この放射 点がある星座の名前を用います。つまり、今回の流星群はふたご座に放射点があるため、「ふたご座流星

放射点について話をしましたが、 放射点周辺に流星が多く飛ぶわけ ではありません。流星群を観察す るときは、空全体をまんべんなく 眺めることが大切です。防寒対策 をしながら、全天が見渡せる場所 で流星群を楽しみましょう。天文 台でもイベントを企画しています ので、皆様のお越しをお待ちして

参考図書:星空年鑑 2025 (アストロアーツ)



星空クイズ

1990年12月2日、初めて日本人が宇宙 へ行きました。 当時 TRS テレビの社員だっ たその方は、旧ソ連のソユーズ TM11 号で 宇宙へ行き、宇宙船ミールに乗り込んで6 日間滞在しました。では、その人の名前は?

- A 毛利衛さん
- B 秋山豊寛さん
- C 向井千秋さん

答えは中面へ

「星空案内」2025年12月号 制作・発行

⑤ 浜松市天文台

〒430-0836 浜松市中央区福島町 242-1 TEL: 053-425-9158 E-Mail: hao@city.hamamatsu.shizuoka.jp



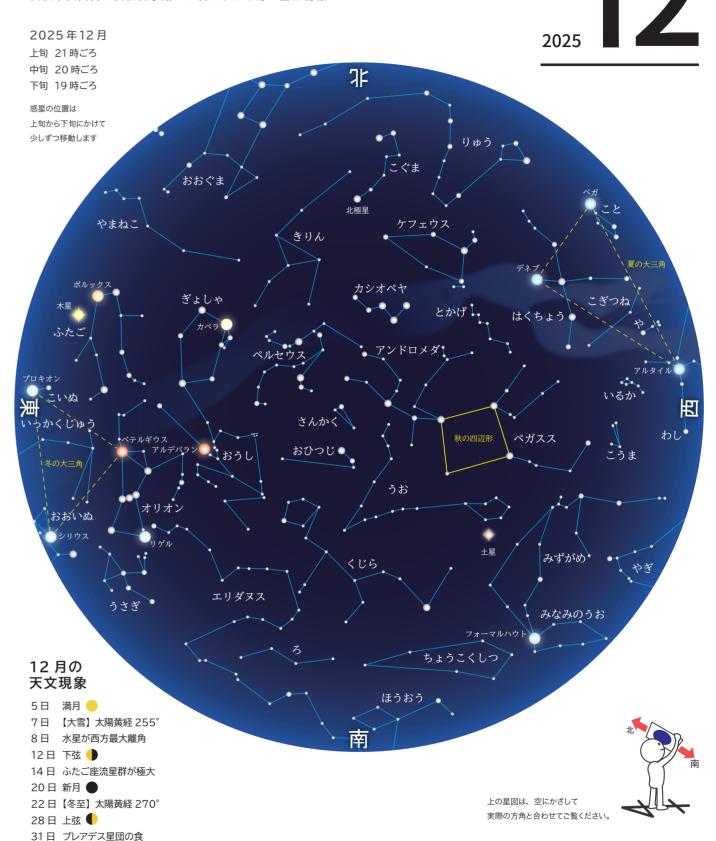
浜松科学館

〒430-0923 浜松市中央区北寺島町 256-3 TEL: 053-454-0178 E-Mail: info@mirai-ra.jp www.mirai-ra.jp



星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報



12 月を迎え、2025 年も残りわずかとなりました。日本の冬は、太平洋側では晴天率が高く、空気も澄んでいるため、星空を 眺めるよい季節です。今年4回あった、プレアデス星団の食が31日の23時ごろ起きます。2025年の天文現象の締めくくりと して、ゆっくり星空を眺めるのはいかがでしょうか。





浜松市天文台

OK NG 天候不良開催 天候不良中止

イベント情報

天文台ウェブサイトよりお申込みください。



季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望します。

時間 18:30~20:30

会 場 天文台屋上

申し込み 開催日3日前の水曜13時から受付(30分ごと先着20組)



ウェブサイトはこちら

星座と当夜の見どころについて、星のソムリエ®がやさしく

お話しいたします。 時間 17:30~18:20

会場 2F講座室

申し込み 12/3 (水) 13 時から受付 (先着 6 組)



時間 14:00~16:00 会 場 天文台屋上 申し込み 予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や、

昼間に見える天体を観望します。

土 話題の流星群をみんなで楽しもう。温かい服装で

時間 21:00~23:00

会 場 天文台屋 ト

お越しください。

太陽・昼間の星観望会

天文台まつり 天文工作 13.14

土 日 五島協働センターまつりと同時開催。天文工作を楽しみましょう。 参加無料です。

時間 13日:13:00~16:00 / 14日:9:00~12:00

昼間に見える天体を観察します。

時間 12:00~14:00

会 場 天文台屋上

天文台まつり

太陽・昼間の星観望会

申し込み 予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や

会場 天文台ホール 材料費 無料 申し込み 予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。



日 三脚と一眼レフカメラで、星の写った風景写真を撮影するための

申し込み 11/26 (水) 13 時から受付 (先着 30 組)

入門講座です。

時間 18:30~21:00 会場 2F 講座室

申し込み 12/10 (水) 13 時から受付 (先着 6 組)

裏面のクイズの答え:正解は、B(毛利さんは日本人として初めてスペースシャトルに乗って宇宙へ行った宇宙飛行士です。)

ゆめいっぱい小学生

作品募集

「宇宙」をテーマにした絵画を大募集。 宇宙への夢をお待ちしています。

2025年

2月12日(金)~1月8日(木) 岩

応募はこちらから!

四つ切り画用紙の平面作品 未発表のもの/縦・横どちらも可

電子申請後、作品を天文台に提出(持参または郵送)

2026年







浜松科学館

プラネタリウム番組情報

解説員がライブ解説する「プラネタリウム」と臨場感ある「大型映像」をお楽しみいただけます。



15:50~16:30







~12月25日(木)14:30~15:25 ~解説員による星空解説・宇宙の話~

(土日祝・冬季は 13:00 ~ 13:55 も投映) 平日※冬季除く

15:50~16:30 土日祝・冬季



ティラノサウルス

10:30~11:10 土日祝・冬季 十日祝・冬季 キッズプラネタリウム

夜の科学館 特別投映



きらきら☆こんやのおほしさま ふゆのほし

知ることができます。(下図)

11:30~12:05



ヒーリングアース IN JAPAN

星の名前とその意味

12月12日(金) 18:00~18:40 19:00~19:40

※冬季: 2025年12月20日~2026年1月6日(2025年12月29日~2026年1月3日は休館)

column

文・浜松科学館 天文チーム 長嶋理子

星空イルミネーション

星降るクリスマス

この時期の星空と " クリスマスの星 " に

毎年やってくるクリスマス。

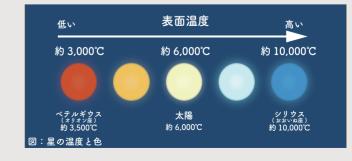
ついて解説します。

今年も残すところ、あと 1ヶ月。街がさまざまな光で彩られるイルミ ネーションの季節になりましたね。そんなきれいなイルミネーションの ように、星の光にもいろいろな色や輝きがあることを知っていますか? まず一番わかりやすいのは、星の「明るさ」の違いでしょう。星は明 るさによって、一等星、二等星という風に明るさのランク分けがされて います。最も明るい星を一等星、目で見える星の中で最も暗い星を六等 星として大きく6つに分けられます。そして、一等星と六等星と比べる と、約 100 倍もの明るさの違いがあるんですよ。それほど、星の明る さには幅があるのですね。

では、なぜいろいろな明るさの星があるのでしょうか。理由はいくつ かありますが、まず一つ目に挙げられるのは地球からの距離の違いです。 星の光に限らず、近くの光は明るく、遠くの光は暗く見えますね。同じ ように地球に近いところで輝く星は明るく見えます。ですが、遠くの星 なのに明るく見える星もあります。これは星の温度が高かったり、星の 大きさが他の星の何百倍、何千倍も大きかったりする星たちです。その ような星は放つ光のエネルギーが非常に大きく、明るく輝くので遠くに あっても明るく見えるのです。

そして次に、星の「色」の違いです。例えば、冬の大三角を作る星の シリウスとベテルギウスを比べてみると、シリウスは青白い光、ベテル ギウスは赤っぽい光で輝いているのが分かります。この星の色の違いは 星の表面温度の違いによるものです。青白い光のシリウスは温度が高い 星で、約1万℃で輝いています。それに対してベテルギウスは約 3,500 ℃と、星の世界では低温の部類に入ります。なんとなく、私たち の感覚的に「寒色」と呼ばれる青の方が冷たそうに感じますが、星の世 界は逆なんですね。こんな風に星の色に注目すれば、大体の表面温度を

冬は明るい星が多く、空気も澄んでいるので星を見るにはとてもいい 季節です。地上を彩るイルミネーションも素敵ですが、夜空を彩る星の 光も負けないくらいきれいですよ。星にはどんな違いがあるのか、ぜひ 実際の空でも比べてみてくださいね。それではみなさん、よいお年をお 迎えください。

















^{12/}14

日



















































